

ジェンダー研究会	
「非公式」折衝レベルからみたP 社労使間の合意形成のあり方に関する一考察	鬼丸 朋子
就業の断続性に見る中年期シングル女性の不安定就業	吉村 さくら
アジアの環境と政策研究会	
タイにおける産業廃棄物管理法制定に向けた背景の考察 —— The Industrial Waste Management Plant Classification Project の効果分析——	佐々木 創 堀内 愛友
抵抗としての「心のふるさと」 への変容 —— 津和野町観光協会『観光報』に注目して——	森 朋也
非線形経済理論研究会	
会計・税務と幾何学 —— 新しい研究手法の可能性 ——	田村 威文
マクロ経済学とTaylor ルール —— 安定性と内生的景気循環 ——	吉田 博之
財政規律のタイミングについて不確実なモデルとHJB 方程式を用いた解法	青木 慎
いわゆる「最適」金融政策について —— 動学的最適化アプローチ ——	浅田統一郎
人口減少を伴う最適成長モデル —— 日本経済の「スマートな縮小」は可能か ——	高橋 青天
標準的状态空間モデルにおけるアンアウェアネスの再検討 —— 公理の緩和と不可能性定理に関するサーベイ ——	多田 由彦
社会哲学と経済思想史研究会	
From Ricardo to J. S. Mill : The Arguments of the Growth Paths of Wages	Naoyuki WAKAMATSU
ハイエクにおける『価格と生産』と『貨幣の非国有化』の関係性について	伊藤 正哉
スミスの『国富論』とメルヴィルの『レッドバーン』(2)	福士 久夫
増価蓄積経済研究会	
増価蓄積型経済の事例分析	赤羽 淳・中村 彰宏 後藤 孝夫・石黒 裕太郎
国民生活問題研究会	
雇用は安全か —— 不安定就業としての雇用型・非雇用型プラットフォームワークの実証比較 ——	柴田 徹平
思想史研究会	
帝国の影に埋もれた経済学者 —— 三宅鹿之助(1899～1982) の経済思想とその時代 ——	周 雨霏
本多利明とトーマス・マン(1) —— 本多利明著「和蘭陀の都, アムステルダンの開祖何某, 国家を興したる始末之事」前半部とトーマス・マン著『一論』・『進言』・『財宝』の分析を中心として ——	宮田 純
現代資本主義分析研究会	
ホワイトカラー犯罪研究と企業不祥事研究と働きすぎ研究のための科学論	前島 賢土
社会経済ミクロデータ研究会	
健康状態と所得が消費支出に与える影響 —— 国民生活基礎調査を用いて ——	伊藤 伸介・出島 敬久 古隅 弘樹・村田 磨理子
フランスの人口センサス・ミクロデータによる世帯・職業構造の分析	西村 善博

フランス経済社会研究会	
フランスの高等教育におけるアルテルナンス拡大のメカニズム ――外部環境と 3 主体の相互作用――	五十畑 浩平
財政研究部会	
英国の個人自立手当	柏木 恵
特別研究プロジェクトC	
我が国における地方振興政策と地方自治に関する歴史的考察 ――戦後復興から令和の「再集権化」まで――	阿久津 航
2025年度経済研究所研究活動記録	